

## 基調講演者プロフィール

昌子住江氏：NPO 法人アクションおっぱま理事長、  
元関東学院大学教授/工博



土木学会日本土木史研究委員会委員、同選奨土木遺産選考委員会委員、同四谷見附橋土木史研究員会委員、都市計画学会創立 50 周年記念誌編集委員会委員等歴任。主な著書『ネオ・バロックの灯 四谷見附橋物語』（技報堂出版）『未完の東京計画』（三省堂）など（いずれも共著）。2006 年度全国都市再生

まちづくり会議「大学連携賞」受賞。

### 講演概要

「一号停留所」の保存にかける「NPO 法人野口英世よこはま顕彰会」の熱心な活動に、こころから敬意を評します。

東京湾第三海堡遺構とはさまざまに異なる条件があり、どこまで参考になるかはわかりませんが、保存・公開に至る過程についてのご報告を通して、何かお役に立てるものがあれば幸いです。

ご報告の流れは以下の通りです。（1）東京湾第三海堡とは何か （2）保存における制約条件 （3）それぞれの立場と対応～追浜の住民（団体）、横須賀市役所、横須賀市議会、国土交通省、国会 （4）住民運動は熱しやすく覚めやすい？ 求められた地元の意思とは （5）保存はゴール・保存はスタート （6）管理協定という方法 保存・公開における地元団体の役割 （7）遺したものの価値～どう継承していくか

報告後の質疑により、お役に立てる点が明確になることを期待しています。

米山淳一氏：公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事、

元公益財団法人日本ナショナルトラストトラスト事務局長



1951年神奈川県生まれ

獨協大学外国語学部英語学科卒

元公益財団法人日本ナショナルトラストトラスト事務局長

現在、公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事。

また、地域遺産プロデューサーとして各地で歴史を

生かしたまちづくりを推進。

**著書** まちづくりとシビックトラスト共著（ぎょうせい）、地域遺産みんなと奮戦記（学芸出版）、歩きたい歴史の町並み共著（JTBパブリッシング）、歴史鉄道酔余の町並み（駒草出版）、続・歴史鉄道酔余の町並み（駒草出版）、みんなのシビックプライド（駒草出版）ほか

#### 講演概要

昭和30年代末期、鎌倉八幡宮の裏山の住宅開発を阻止することから始まった市民による歴史的環境保全運動は、古都の歴史的風致を保全する法律である古都保存法を成立させている。

この時代は、我が国の高度成長期であり、全国各地で、地域固有の自然や歴史的資産の破壊が進んでいた。合わせて歴史的集落や町並みの保存が高まりを見せ、国の重要伝統的建造物群保存制度の確立は大きな転機となった。

一方、市民運動の象徴のような小樽運河の埋め立て反対運動は、歴史に残る結末を迎えるのである。

その後、自然や歴史的環境保全は、市民、行政、専門家、企業らが一丸となり、まちづくりの視点から協働で保全を進める時代にはいった。しかし、最近では再びその軸線がブレ始めている。

一号停留所の保全は、検疫所としての長浜の歴史文化に敬意を表し、これを礎として歴史を生かしたまちづくりの視点から考えるべきであり、建造物を単体で残せば良いということではないと考える。